

尾州の知と技 「FDC匠ネットワーク」メンバー紹介



FDC匠ネットワークメンバーに聞く

質問します

質問1：職歴は？ 質問2：主に携わった業務は？ 質問3：尾州産地の現状認識は？

質問4：貴方が伝承しているもの（こと）は？ 質問5：その伝承に必要なもの（こと）は？

質問6：JB東京展での訴求ポイントは？



物作りのできる人材の育成は急務

レディス生地の匠・水谷 仁さん（所属・田中テキスタイル）

質問1 1957年 飯田毛織入社 70年 野田健毛織入社

69年 同退社 2000年 同退社

同 田中テキスタイル入社、現在に至る

質問2：10年間はメンズの企画専門、以降はレディスの企画・営業

質問3：拵見本を作れる企画マン（柄師）が少なくなってきた。やはり尾州産地として、物作りができる人材がほしい。また、量産物の生産分野で、外注の機屋は、ほとんどが60歳以上の高齢者である。

質問4：産地としての物作りの伝承と若手企画マンの育成。

質問5：将来のことを考えると、やはり一番は人材の育成。それに対する行政の支援が必要だ。内容的には若手（外注機屋を含めて）のやりがい、生きがいを感じ取れる指導である。

質問6：何かが違う、どこかが違う素材の提案。すなわち視覚で感じ、触れて風合いや原料の違いを感じられるもの。また確かなこだわりを感じるものである。



ウールニットの減少とインフラの縮小に悩み

ニット生地の匠・川村康文さん（所属・川村ニット）

質問1：昭和37年 岩仲毛織入社 60年 川村ニット設立

60年 岩仲ニット退社 62年 株式会社に改組

質問2：丸編み、ラッセルの企画・営業

質問3：ウールニット生地の受注、生産量の減少。それに伴い関連紡績、ニッター、染色整理工場が減少している。厳しい品質と小ロットも問題だ。

質問4：糸、編み、染色整理とのコラボレーションによる新しいクオリティの物作り。

質問5：アイデアの具体化に伴う原料、染色加工の人材。またそれを理解できる若い力の確保。

質問6：織物とニットのコラボレーション。